スペイン在住の日本人6人。
スペインで為せば成る！

6 Japoneses en España "Querer es poder"

～仕事は人生の中心じゃない？現地生活を謳歌する日本人6人に聞いてみました～

駐在、留学、自由業など、日本人が長期でスペインに渡る背景はさまざま。全体を展望すると在スペイン邦人数は年々増加している*。特に30歳以下の人にとっては、2017年4月からワーキングホリデー制度が始まったことで門が大きく開かれ、このビザで近いうちにスペインへ出発しようと考える人もいるだろう。スペインは豊かな食文化、多様性や包容力があり外国人に優しい国民性、多数の歴史文化遺産など、日本社会では体感できない魅力がいっぱいだ。現地で発見した人・物・事をいつか自分の仕事に繋げたい、さらに突き詰めるなら、スペインを拠点にして仕事がしたいと思う人も中にはいることだろう。

では、向こうで実際に仕事を見つけて（作って）活躍するようになるまでは、どんな道を辿るのか。特に駐在ではなく個人での挑戦を考えた時、さまざまな困難も待ち受けている（ビザの問題、言語の壁、仕事に対する価値観の違いなど）。失業率の高いスペインでは、外国人（特にEU圏外）労働者の雇用に対して未だに風当たりが強いのも事実である。容易な道とは言い難いが、叶えたい夢に具体性・計画性がしっかりとあるならば、いい意味で他人との壁がないスペインは、助けてくれる人を見つけやすい国だと言える（もちろん、最低限のスペイン語の能力は必要になってくる）。

今回取材に応じてくれた6人は、各分野で、個人でスペインに挑戦した人たちだ。うち5人は、バリバリとスペイン、時には日本で仕事をこなしている。そして最後に掲載している平岡さんは、まさに今、仕事を実現させるためにサン・セバスティアンで挑戦中だ。

日本だとありがちな柵や人目を気にすることなく、実直に夢を叶えたい、自分の才能を発揮したいと考えるなら、この特集を読んだ後で、あなたもぜひスペインへの挑戦を考えてみて欲しい。

*外務省が毎年実施している「海外在留邦人実態調査」によると、2018年10月時点の在スペイン邦人数は8,192人（永住者3,006人、長期滞在者5,186人）で、5年前の2013年10月（7,547人）から比べると8.5%増加している。中でも長期滞在者は7.4%増加。

CASO

1

Minako

BARCELONA

Traductora e intérprete

通訳・翻訳者／バルセロナ在住

ぶれずにスペイン語一本でやってきたが、
仕事は多く常に忙しい毎日。
そういう運命なのかな、と思っている。

Minakoさんが学生時代によく読んでいた
スペイン語の哲学、文学作品。

スペインへ行くことになった きっかけはなんですか？

大学受験の指定校推薦枠にイスパニア語（スペイン語）学科があり「イスパニア」という響きに惹かれ、京都外国語大学に入学。ここから、スペイン語に打ち込む人生がスタートしました。大学時代には交換留学で1年間バルセロナ自治大学へ。現地の生活スタイルや娯楽と出会いながら、非常にのびのびとした留学生活を送ることができ、卒業後、もう一度同じ大学へ2年間留学。1年目はスペイン語のさらなるブラッシュアップが目的で、2年目からは哲文の授業の聴講もスタートしました。スペイン語は、勉強していて楽しい言葉。動詞の活用も勢いで覚えることができて、とても自分に合っている言語という点が大きかったですね。

仕事をどのように 実現させましたか？

学生時代にバルセロナ留学していた時に、人づての紹介で漫画の翻訳や、声優の演技指導などのアルバイトを始めました。当時からバルセロナは漫画文化が旺盛でした。漫画はそれまで自分もよく読んでいましたが、作品によってはかなりおかしなセリフやダジャレを際限なく訳さなくてはいけなかったので、今はちょっと苦手かも……。プロの通訳・翻訳者として仕事をスタートしたのは2回目の留学から帰国直後。通訳・翻訳会社に登録して仕事を受注し、それからしばらくしてメキシコに2年半滞在して通訳・翻訳をしました。帰国後は日本で6年ほど、製造業、官公庁や刑務所などの公的機関、語学学校で企業向けのスペイン語の講師、NHK取材の通訳など……多岐にわたる業界で通訳・翻訳業務をこなしました。後にフリーランスも始め、さらにさまざまな業界に関わるように。2012年に渡西し、6ヶ月ほどマドリードで暮らした後、夫の仕事の都合でスイスのチューリッヒに2年滞在。スイス時代もネットで仕事を受注し、スペインにも出張していたので、とても忙しい時期でした。2014年にマドリードに戻って3年間暮らし、2017年にバルセロナに引っ越しして現在に至ります。

仕事のお客さんは、どんな人たちですか？
スペイン人：1%　日本人：99%
男性：55% 女性：45%
主な年齢層：40〜50代

バケーションはどうしていますか？

フリーランスなので1日完全に休みという日はありません。夏に帰国した時もがっつり仕事し、7月は日本で大量の翻訳仕事をしています。スペインで家族旅行に出かけている時も、その合間に仕事のやり取りをしているので、旅行中は仕事と旅行の両方しなければいけないのでかなり忙しいです。

バルセロナ北部の海岸コスタ・ブラバは、お気に入りの場所。

スペイン暮らしを振り返って、性格や考え方に変化はありますか？

大きな影響があったと思います。スペインに住んでいると、明るい人たちと楽しく交流できるだけではなく、時には拒絶や怒りの感情を示さなくてはいけないことがあります。日本のように沈黙が尊重される国ではなく黙っていると自分の意見がないとみなされるので、日本しか知らない頃の自分からすると随分とはっきりとした強い性格になったと思います。その一方で信頼できる人、家族や友人に対してはこれまで以上に優しく、大事にできるようになったと思います。

スペインで幸せな瞬間

仕事でより多くの活躍のチャンスがあること。特にこの仕事をしていると、普段は関われない人との出会いや、入れない場所に行くこともあるので視野が広がります。そして他人を咎める目が少ないです。日本だと、他人の常識の範囲から外れる行為は影で非難されることがありますが、スペインは、自分が自由に生きたいから他人の自由も束縛しない、という考え方が主流で、自己責任で自由に活動できます。

スペインへ行くことになった きっかけはなんですか？

高校時代のアメリカ留学で中南米の人たちと交流したのが、スペイン語に興味を持ったきっかけ。短大時代の1997年に、スペイン語を学ぶために1年ほどスペイン留学しました。マドリード3ヶ月、マラガ1ヶ月、バルセロナ4ヶ月など各地で暮らして、この国の食文化を発見しました。現地料理は日本で知られているスペイン料理とかなり味が異なっていたのでとても驚きました。帰国して短大卒業後は7年間メーカー職についていましたが、食の分野に転職したいと思い野菜ソムリエ協会に勤めた後、スペイン料理に特化して学ぶため2007年に30歳で再びスペインに渡りました。

仕事をどのように 実現させましたか？

その頃はスペインのワーキングホリデービザがまだなかったので、まずドイツのワーホリビザを取って、ドイツの食文化も同時に学びながらスペインに滞在しました。マドリード、サン・セバスティアン、バルセロナでスペイン料理を学び、スペイン人の夫とは、この頃に出会いました。ワーホリ終了後はビザの関係で一旦帰国し、日本で4ヶ月派遣で働き、2008年春に学生ビザでスペインへ再入国。学生ビザはその後も1・2回更新しましたが2009年に結婚したので婚姻ビザに切り替えました。実は再入国してすぐ、まずは一般企業に働いて基盤を作ろうと思い履歴書を送り続けて約半年間の就職活動をしたのですが、結局、就労ビザがないと相手にしてもらえないことがわかり、心身ともに疲れ、それなら自分のやりたい仕事を始めようと思い、2009年4月にスペイン人向けの和食教室を開校しました。その後、日本人向けのスペイン料理教室を主宰しながら、調理学校プロフェッショナルコースを修了しました。

仕事のお客さんは、どんな人たちですか？
スペイン人：10%　日本人：85%　その他：5%
男性：40% 女性：60%
主な年齢層：30〜40代

開校当初は、スペイン人向けにお寿司を含めた一般的な和食レシピを用意しました。スペインもちょうど2009年頃から和食ブームがあって、当初から熱心に通ってくれる人もいました。現在は、比率8：2くらいで、日本人にはスペイン料理を、スペイン人には和食を教えています。日本人の生徒さんは9割5分が女性で、さまざまな理由でスペインに長期滞在で暮らしている人。スペイン人は男女比は半々で、クリスマスシーズンに仲間と作りたいなど、イベントに応じて学びに来ます。リピーターもいて、中には魚を捌きたい、というスペイン人もいるので、そういう場合はより詳しい日本人シェフに依頼して捌き方講座を開いたこともあります。現在、自分自身でもスペイン料理をさらに学ぶため、スペイン人の一般家庭にお邪魔して勉強中。同じ料理でも家庭ごとにかなり味が異なるので面白いですよ。

スペイン人は堅苦しくないけれど、
特にマドリードの住民は強くそう感じる。
この街は日本人を含めてオープンな人が多い。

三浦さんの日本人向けスペイン料理教室では、本場の味を教えている。

バケーションはどうしていますか？

スペインの一般的なバケーションや休日に合わせて、家族で旅行します。私にとって旅行はその土地ごとの食文化を知れる非常にいい機会。車で2時間行くだけでも、食文化はガラリと変わります。

スペインで幸せな瞬間

日本に比べるとスペインは、マドリードやバルセロナなどの都会でもゆっくりと時間が流れているように感じます。日曜日に子供とのんびりと公園を散歩したり、街路樹を丁寧に手入れしたり……誰かが道で転んでもワッと周りの人たちが駆け寄って助けているのを見ると、仕事や約束事があっても目の前の人を助ける、そういう時間の使い方が許される国なんだな、と感じました。

スペイン暮らしを振り返って、性格や考え方に変化はありますか？

今、私はいろいろな仕事を兼業しています。マドリード在住日本人向けに各種現地での生活を豊かにするイベントの開催、旅・グルメ雑誌やガイドブック向けの記事執筆など……昔、スペインで仕事を探して苦労した時代があったので、基本的に忙しくてもNOは言わないようにしています。料理留学していた頃、スペイン各地の食材について、インターネットにも十分な情報がなく自力で探す必要があり、その過程で現地で話し合える在スペイン日本人と出会えたらいいな、今の自分みたいな（スペインに来た日本人を助ける）人がいればいいなと思いました。だから今は、新たにマドリードにやって来た人に積極的に必要な情報を与えて、その先はその人自身でスペイン生活を楽しんでもらえたらいい、と思ってサポートしています。

CASO 2

三浦深雪

Miyuki Miura

MADRID

Profesora de cocina

料理研究家／マドリード在住

私自身も「好きなことを好きな場所で」という考えを持っているが、スペインはそれが実現できる国だと思う。

中井さんのクリニック内の個室は、和風テイストの温かなインテリア。

CASO 3

中井経賀

Tsuneyoshi Nakai

MADRID

Masajista

整体師／マドリード在住

中井さんから『acueducto』読者へ特別に「自宅で簡単にできるペアマッサージ」の動画（スペイン語解説付き）公開中！！

仕事をどのように実現させましたか？

マドリードとバルセロナに全部で2週間滞在し、就職活動を始めました。現在のようなGoogle検索もない時代。イエローページの「Fisio（物理療法）」や「Spa（メディカルスパ）」という単語を追いながら、市内の整体院を調べて、地図を片手に足を運びながらの地道な職探しでした。とにかく、根性ですよ。訪問先では履歴書と、少しでも自分を印象付けようと、折り鶴を置いて帰りました。おおよそ30件くらい回った頃、とうとう雇用してくれる整体院が見つかり、スペインに来てから1年後に就労ビザが下りました。そこでしばらく働いてから自営業ビザに切り替えて、28歳でマドリードに自分のクリニックを開業。けれども日本に溢れている整体院やマッサージ店は、スペインではその存在はほとんど知られておらず、治療マッサージの概念を知らない人が大半です。だから患者さんにその概念を教育するのには苦労します。そこで少しでも治療をイメージしやすいように、仕事中は白衣を着るようになりました。

仕事のお客さんは、どんな人たちですか？

スペイン人：98%　日本人：1% その他：1%
男性：45% 女性：55%
主な年齢層：40〜60代

初めて来院するお客さんのほとんどは「Yoshiのクリニックに来たら治る、よくなると言われた」という、人からの紹介で訪れます。彼らはどんな名前のマッサージ技術でサービスを提供しているか深くは理解していないにも関わらず、友人や親戚が言ったことだけで来院するのは、凄い口コミの力だなと感じました。またある日、日本車を所有している患者さんが「日本の車は壊れないし安全だしとても信頼している。だから、君のことはわからないけれど、きっと日本人の物はいいから信頼するよ！」と言ってくれ、それをきっかけに、急に日本車を買える層からの評判がよくなったのを覚えています。つまり、私のような来た当初は何も持っていなかった青年が、今こうやって外国で生活できているのは、もちろん自分自身の技術もあるだろうけれど、先人の日本人の努力のおかげ。日本人というだけで、すでに信頼という下駄を履かせてもらっているのです。だから私自身も、そのバトンをまた次の人に渡せるように努力しないといけないと思っています。

スペインで幸せな瞬間

生活全般。自分の選んだ道でスペインにやって来て、やりたくないことはしない選択をしてきた結果、気が付けば自分の好きなことして生きる楽しい人生になっていました。

スペインへ行くことになったきっかけはなんですか？

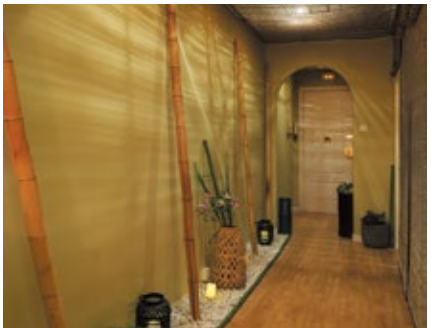
もともと私はプロサッカー選手になりたくて、1998年に19歳でスペイン留学しました。バルセロナ現地の語学学校や大学でスペイン語とサッカーを学びながら、いろいろなチームのテストも受けてみましたが結果は及ばず、2年後に帰国。けれどもこの時スペインのライフスタイルが気に入り、今度はプロの選手を支える裏方になって戻ろうと考えました。留学前には早稲田大学でスポーツ医学を専攻していたのですが、帰国後に復学してから手の技術で病気を治す指圧や整体と出会い、大学卒業後、整体師の経験を積んでから26歳で再びスペインに来ました。

スペイン暮らしを振り返って、性格や考え方に変化はありますか？

仕事ありきの人生ではなく、人生を楽しむための仕事に変わりました。ここではやりたいことを選択して自己実現している人が多いのです。たとえば道端で自由に芸術活動をしている人たちに対して、皆が寛容。そんなことをしたって稼げないのに……と批判的な目で見るのではなく、それぞれが選んだ進路を尊重する。だからこそ、この国ではレベルの高いサッカー選手や芸術家が育つのではないでしょうか。

バケーションはどうしていますか？

昔は夏に1ヶ月間休んでいましたが、最近はあえて2週間に短縮（1ヶ月も休むと仕事のやり方を忘れてしまいます！）。スペイン人は1ヶ月まるまる休む人も多いですが、皆バケーション明けは仕事のペースをすっかり忘れていて、9月ボケがひどい。スペイン人の仕事の生産性が元に戻るのは10月くらいからでは？ただ、中には「バケーション中にしっかり休むからこそ、自由な発想、クリエイティビティが出てきて、休み明けの大きなビジネスチャンスになる」という意見もあります。休みをたっぷり取る国だからこその仕事への考え方で、面白いですよね。



スペインへ行くことになった きっかけはなんですか？

私は幼少期にクラシックバレエ、大学卒業後に中国武術を習い、1990年頃の20代後半にフラメンコを始めました。本場でフラメンコ修行をしたいと思ったのでガイドブックの留学情報も参考にして学生ビザを取り、1999年11月にアンダルシアの州都セビーリャへ行きました。まずは1年間と考えていましたが、以降、現地に滞在して今年で20年目になります。

仕事をどのように 実現させましたか？

私の場合、フラメンコ生活を続けるために新たな仕事を探しました。まずはあん摩マッサージをやってみたもののすぐに勉強の必要性を感じ、セビーリャの指圧専門学校に入学。スペイン語の不自由はあったものの、クラスメートの助けと自身の努力で無事に修了。2004年から指圧マッサージ師の仕事をスタート。また、かつて日本で日本語教師を7〜8年間勤めていたので、その経験を生かして現在も日本語を教えています。現地学校の集中講座を担当することもあれば、オンラインレッスンで教えることもあります。フラメンコダンサー、指圧マッサージ師、日本語教師の3本柱で生活し、それぞれの仕事量のバランスは月によって大きく変わります。たとえば、夏は指圧のお客さんが減るのを見越して他の2つの予定を多めに入れています。パズルを入れ替えるようにして、3つの仕事をうまく成立させています。

仕事のお客さんは、どんな人たちですか？

スペイン人：75%　日本人：20%　その他：5%
男性：25% 女性：75%
主な年齢層：50代

フラメンコを観に来てくれる人は、日本ほどの義理立てがありません。行くよ、行くよと口約束しても気が乗らない、体調が悪い、飲みに行く、などの理由で来ないことも当たり前。逆に来ない予定だったのに来ることもあります。彼らは刹那的な判断を大事にし、何をするのが今の自分にとって最良かを考えています。指圧マッサージの集客は、信用（confianza）が要。だからこそ、まずは人となりを知ってもらう必要がありました。始めた頃は予約をドタキャンされたり、前日にリマインドの連絡を入れないと思い出してくれなかったり、といったことが多かったのですが、何年か続けているうちにお客さんとの間に信頼関係ができて、向こうから予約を忘れないようになりました。

2017年、トリノのレジオ小劇場で開催されたフラメンコ国際コンクール「Flamenco Puro」部門別の決勝の舞台にて。

地元のバル、ライブハウスでの小規模なフラメンコショーは、事前に宣伝はするが基本的に前売券は販売しない。前売券を買わない（＝先の予定の約束をしない）のはセビーリャでは珍しくない。

CASO 4

勝部理子

Riko Katsube

SEVILLA

Bailaora de flamenco

フラメンコダンサー／セビーリャ在住

スペイン暮らしを振り返って、性格や考え方に変化はありますか？

性格は多少は変わってきているでしょうね。日本流の気遣いから外れてきたというか、気になったことや疑問点はすぐに口にするようになりました。日本人が気を遣って「そんなことできない」とやる前から諦めてしまう時、「どうして？」「遠慮せずに聞いたらいいのに」と突っ込んで、スペイン人の理屈で言ってしまうことがあります。他地方からセビーリャに移り住んだスペイン人も言うことですが、セビーリャ人は「アビエルタに見えるけれどセラーダ」。内輪のサイクルからなかなか出てきませんし、有名なFeria de Abril（春祭り）もセビーリャ人のための社交場です。他人の中まで入ってこないので、いい意味で放っておいてもらえますが、逆に干渉して欲しかったら自分からグイグイいかないとだめなんです。

バケーションはどうしていますか？

個人として仕事をしているので、特に休暇期間はありません。不定期に1ヶ月ほど帰国して家族に会いに行き、日本でも仕事（バイレのパフォーマンス、ワークショップ、クルシージョ、指圧、日本語オンラインクラスなど）を続けています。

スペインで幸せな瞬間

¡No pasa nada!（気にするな）の精神に助けられます。自分では深刻だと思っている問題でも、それを言われると楽天的になり、ホッとします。他には、日が長くて朝晩涼しいセビーリャの風土は気に入っています。仕事の後に赤ワインを美味しいなあ、と思って飲む瞬間も好き。

勝部さんのフラメンコ活動は、地元の新聞『Diario de Sevilla』（2018年7月5日付）にも紹介された。

Madre no hay más que ninguna

スペインへ行くことになった きっかけはなんですか？

大学生時代にはプロサッカー選手を目指していましたが、それがダメで「クラブを持ちたい」と思ったのが出発点。当時は日本国内で作ろうと思い、その資金を貯めるため大学院を卒業後IT会社で4年半勤務しました。仕事の傍らで情報収集のためにいろいろな指導者や関係者に会いに行き、その過程でスペイン在住の方々との出会いが多くあったことから、スペイン行きを決意。2011年10月、28歳の時に学生ビザで入国、地中海の街バレンシアを生活の拠点に決めました。

スペイン暮らしを振り返って、性格や考え方に変化はありますか？

日本にいた時は競争していた記憶があります。何かに迫られているような圧力を感じていましたが、スペインに来てそれはなくなりました。いろんな人種の方がいるので、僕らは僕ら、彼らは彼らでいいんだ、あるいはできないことはできないから、次に行こう、と思えるだけでかなり気は楽になりました。

CASO 5

尾崎剛士

Tsuyoshi Osaki

VALENCIA

Entrenador de fútbol

サッカーコーチ／バレンシア在住

サッカー指導者の99%はスペイン人。だから、私のようなアジア人指導者はかなり目立っていると思う。

スペインサッカーカンファレンスin横浜での講演の様子。

レバンテUDクリニック大阪での指導の様子。

仕事をどのように実現させましたか？

まずは、バレンシアに着いて3日目から地元クラブでアシスタントコーチとして活動を始めました。その1年後に指導者学校に入学して2年間通い、サッカー指導者ライセンスIIまで取得しました。この間も所属クラブでの試合観戦やアシスタントコーチとしての経験を積みながら勉強させていただき、実際に自分が初めて第一監督としてチームを任されたのはスペインに来て3年目で、契約先はバレンシアの街クラブのジュニアチーム。以来、2019年現在まで3つのクラブを渡り歩き、コーチを続けています。

学生ビザから個人事業主ビザに切り替える時は、その変換の情報がなく非常に苦労しました。失業率の高いスペインでは外国人が就労ビザを取ろうとすると「雇用を奪う」と思われがちで、たとえばスペイン人の雇用を確保した上で申請しないと通りにくいなどの暗黙の条件があり、これらの書類の準備、切替の条件を揃えるために弁護士を頼らざるを得ませんでした。1年かけて個人事業主ビザを取得して現地で出会ったスペイン人のビジネスパートナーとバレンシアで起業し、現在まで二人三脚で仕事を続けています。

仕事のお客さんは、どんな人たちですか？
スペイン人:50%　日本人:50%
男性:50% 女性:50%
主な年齢層:20〜50代

バレンシアのジュニアチームのコーチのほか、貿易、留学・遠征コーディネーター、日本クラブのアドバイザーも兼業しています。毎年夏や年末年始は日本に帰国して、高校生へのサッカー指導や全国大会まで出場したらそのチームの監督、指導者向け講習会、さらに現在はバレンシアのレバンテUDとも契約しているのでそのプロモーション活動も行なっています。サッカー指導については、スペインの子供たちと日本の子供たちを教える時、接し方は大きく異なります。スペインでは、私がスペイン語で説明したことに対してさらに質問を重ねてくるので、どんどん喋らなければいけない。くだらないことでもグイグイきます。距離感がとても近く、彼らとの関係は一緒に物を作っていくひとつの家族のようなもの。私自身も指導中に、家族なんだから、何かあったらお互いにすぐに助け合おう、気を使おう、という言い方をよくします。日本の子供たちは教えられ慣れているので、学びに対して受け身の態度。だから別の意味で、私が喋り続けなければいけません。彼らとの関係は「指導者と生徒」という立場ではっきり線引きされているように感じます。

バケーションはどうしていますか？

スペインの休暇のたびに日本に帰国して仕事をし、スペインに戻ったらリーグ戦がまた始まる……という日々なので、まとまった休みはほとんど取っていません。ただ、自分の自由に時間が使えますし、拠点にしているバレンシアは大きな公園やおしゃれな場所も多く子育てもしやすい環境なので、楽しいことは日常的に経験できていると思います。

スペイン・バレンシアにて自チーム（トレンテCFのU-19）の指導をしている尾崎さん。

スペインで幸せな瞬間

家族との時間を十分に取れるところ。ここは子供と高齢者をとても優遇してくれる国です。電車内でタトゥーのたくさん入ったお兄さんがおじいちゃんに席を譲るのが日常風景。外国人の子供に対しても優しいです。見ず知らずの他人でも、赤ちゃんを見かけたら話しかけてくれたりあやしてくれたりします。いい意味で他人との垣根がなく、街や地域全体で子育てをしていると感じます。

スペインへ行くことになった きっかけはなんですか？

初スペインは、2002年のガウディ・イヤーでバルセロナに2〜3週間滞在した時。当時26歳、貧乏旅行で食事はパンとサラミばかりで、まだスペインのご飯の本当の美味しさを知りませんでした。この時は、地中海の空の青さと太陽の高さがとても印象に残っていました。その後、スペインとはしばらく縁がなかったのですが、ある日、徳島の阿波踊りイベントで、ちょうど日本を一周中のケルト人と知り合い、彼にエル・カミーノを歩くことを強く勧められ、さらに、たまたま好きな映画監督が撮ったカミーノの映画『星の旅人たち』が公開され……いろいろな偶然が重なり、これはぜひ歩かなければ、という想いに駆られて40歳になる年にカミーノを歩きました。

巡礼者として旅していると、現地の人たちはとても優しくしてくれて、そこでスペインにまた新しい印象を抱きました。ログローニョで初めてピンチョスに出会い、とても小さなこの食べ物へかけられた情熱にものすごい感動を覚えました。その後も、いろいろな土地の料理を食べましたが、巡礼中にバスク料理の評判を聞いてぜひと思い、巡礼後にサン・セバスティアンを訪れて毎日食べ歩き&食い倒れ。この街は、綺麗な海もあり、山もあり、非常に暮らしやすくてすっかり気に入ってしまいました。その後、移住を決めるまでサン・セバスティアンを数回再訪し、やはり住むならここがいいな、と判断して長期滞在へ。そこそこ発展している観光地なのでここなら仕事もあると思いました。2019年秋現在は、ちょうど長期滞在を始めて1年ほど経ったところです。

どんな仕事を しようと思いますか？

サン・セバスティアンでどんなニーズがあるか考え、いろいろなバルやレストランを食べ歩いているうち、日本の包丁を使っているお店が結構あることに気付きました。ただ彼らは正しい扱い方を知らないので包丁の刃がボロボロになっていました。それを見て、日本人の私がここで切れ味の悪くなった包丁を生き返らせたいと思い、研ぎ師になろうと考え、研ぎ方を習いました。でも本当は研ぎ師になるよりも、包丁を彼らに販売したい。私の好きな言葉で「金鉱でスコップを売れ」というものがあります。つまり、これだけ食文化の発展している場所だから、調理道具を売る商売がいいんじゃないか、と思っています。将来的には、本業で目指しているものと別に、包丁ビジネスにも力を入れたいと思っています。

CASO 6

平岡正徳

Masanori Hiraoka

SAN SEBASTIÁN

Sidrero

シドレリアコンサルタントを目指して就職活動中／サン・セバスティアン在住

Día de San Sebastián（1月20日）にとあるソシエダで撮影。

平岡さんが通う現地のシドレリアの内部。レストランが併設されていて、シードルと地元の料理をたっぷり堪能できる。

シードルを日本に普及させたい。食文化の発達しているスペインで調理道具を売ることも考えている。たとえば、日本の包丁。

本業として実現させようと しているものはなんですか？

2018年1月に移住者歓迎国のオランダにいて、最初はこの国に住んでスペインで働くという方法も検討していました。けれども、冬のオランダは人柄も気候も冷たくご飯もそんなに美味しくないという印象で……同じ月にたまたまサン・セバスティアンのシドレリアに行ったら、そこのご飯は非常に美味しい、雰囲気もまた楽しい、体験型アトラクションみたいなところも面白い、隣の人が普通に話しかけてくれる、オランダとは180度違うと感じました。

シードルはアルコール度数も低いし、そのリンゴの甘みと酸味の効いた味自体も好きになりました。さらに今は日本で法律が変わってアルコールが製造しやすくなり、クラフトビールもヒットしていますよね。日本にりんご農園はたくさんあるから、シードル製造のポテンシャルも高いはずなので、サン・セバスティアンで修行をして、日本に普及させるシドレリアコンサルタントを目指しています。まだ同じものを目指している人がいないので、この分野のパイオニアになれたらいいなと思います。そこで現在、修行のため雇用してくれるシドレリアを探して就職活動中です。何件か問い合わせていたら、スーパーでも目にする老舗シドレリアが興味を持ってくれました。もし雇用が決まって就労ビザが下りたら、ここでこれからも長く生活して、シドレリアの知識やノウハウを身につけていきたいと思います。

スペインで幸せな瞬間

バル文化を楽しめること。ニューヨークやパリなどの他国の都会なら、それなりにお金を払えば美味しいものが食べられます。それに比べるとスペインは、気軽に安く、とても美味しい料理を食べることができるという点で異なります。サン・セバスティアンの街が安全で日が長いということもあり、老若男女問わず住民がバルで楽しんでいて、夜遅くまで子供たちだけでサッカーを見に来ていたり、おばあちゃんたちだけで出歩いてバルに来ていたり、そんな自由で温かい文化にも魅了されました。

Más información sobre ellos

6人にもっと聞いてみた

Minako

通訳・翻訳歴15年以上
2012年〜スペインで働く
バルセロナ在住

BARCELONA

お気に入りの場所

カタルーニャのコスタ・ブラバ地方：フランス国境近くの海岸地。アテンドでお客さんをここに連れて行くこともあります。
バルセロナ旧市街：バルセロナ自体、開放感があって独特のオーラがあります。旧市街の雰囲気や新市街の街並みも好き。ここは地中海の開かれた文化とカタルーニャの中世的、閉ざされた内陸の文化が共存していて、とても面白い街です。

スペイン語の学習歴

［日本］
京都外国語大学スペイン語学科
［スペイン］
バルセロナ自治大学
大学受験時代からすでにスペイン語の勉強の仕方を自分で確立していました。留学の派遣試験を受ける時は、オーディオルームで毎日スペイン国営放送Telediarioのリスニング、ウィスパリングを続けました。資格は、スペインに行くまでに西検3級を取って、大学卒業後にすぐスペイン語検定2級（2003年）を取り、2回目の留学から帰国してから1〜2年後にDELE C2を取得しました。スペインでは『El Mundo』などのスペイン語の新聞全面に毎日目を通しました。単語帳を作るというより、とにかくインプットの量をこなしていき、何度も出てくる単語や表現を覚えるようにしていました。現在、辞書は学生時代から持っている和西辞書やRAEを使っています。

スペイン語習得のブレイクスルー

大学生の頃から今まで何度もブレイクスルーしたと感じた瞬間はあったと思います。ただ語学は生き物で、日々努力しないと忘れるので、ブレイクスルーしたと思っても、またレベルが落ちたり上がったりの繰り返しです。

スペイン人の横顔

――スペイン人も非を認めたら謝る――
「スペイン人は謝らない」と思い込んでいる人がいたら、それは違います。仕事のできる人、賢い人ほど自分の悪い点を理解してしっかり謝ります。逆に「日本人は謝りすぎ」という話は周りで聞いたことがないので、そう思うのは日本人の自虐かもしれません。

仕事スタイル、ココが違う！

日本人は仕事上で持続的な質の向上を目指しますが、スペインでは、人によると思いますが、その場で仕事が終わったらそれで完結して、その後の売上アップや質の向上を考えないことが多いです。先輩・後輩など日本のような上下関係はなく、仕事仲間なら友達口調で接し、フラットな関係を築くことができます。

Miyuki Miura

料理研究家歴11年
2009年〜スペインで働く
マドリード在住

MADRID

お気に入りの場所

レティーロ公園：緑の中の大きな公園は、子供のいる身としてありがたいです。
Lavapie地区：アフリカや中東の人たちの多い地域です。さまざまな人種が集まっているので、外国に来たような雰囲気があります。

スペイン語の学習歴

［日本］
独学
［スペイン］
大学（バルセロナ外国人コース、コンプルテンセ外国人コース）、私立の語学学校
短大時代は少し文法書を読んだ程度で、ほぼ何も知らない状態でスペインへ。最初はスペイン人が何を話しているのかわからず、とにかく辞書を読み漁りました。最初に通った大学付属コースは日本で情報収集して見つけ、その後、現地で紹介してもらった私立の語学学校へ。2007年に再び来た時は、学生ビザの関係で語学学校に行く必要があったのでビザの取りやすかった別の学校で勉強しました。
スペインのTV番組は、1ch 20:30の「Aqui la Tierra」を家族で毎日見ています。ニュース番組ですがスペイン各地の食文化を紹介しているのでまさに自分にぴったり。

スペイン語習得のブレイクスルー

結婚してからますます必然的に使わなければいけない言語になって、始めは親戚の人でも言っていることがわからなくて、その場にいるのも嫌になることもありましたがヒアリング力はこの時に鍛えられました。そしてまた壁にぶつかっての繰り返し。話す時に優しい単語を選んでくれる人、ネイティブの感覚で話しかけてくる人、後者だとやはり難しいな、と感じます。

スペイン人の横顔

――食への飽くなき探究心――
スペインでは街中のおじさん同士でも、何を熱心に話しているんだろうと耳を傾けると、だいたい皆食べることの話ばかりしています。スペインは国内自給率90%以上と云われ、安くて良質な国産の野菜、魚介やお肉を入手できます。

仕事スタイル、ココが違う！

私自身がスペインの一般企業に勤めていないので、他人（夫や友人）からの情報ですが、スペインの企業では、目標を共有して足並みを揃えることがありません。男性も女性も自分のポジションを守るために個人主義です。日本と違って仕事の引き継ぎもほぼありません。

【プロフィール】
マドリード、サン・セバスティアン、フィレンツェにて料理を学ぶ。休暇があればスペイン・ポルトガル各地に旅行し現地の味を探求している。スペイングルメの記事の執筆、きき酒師。マドリードにてスペイン料理教室主宰。
ameblo.jp/spainfoodmarket

Tsuneyoshi Nakai

整体師歴18年
2005年〜スペインで働く
マドリード在住

MADRID

お気に入りの場所

バルセロナ：サッカー観戦や家族旅行で訪れます。マドリードやバルセロナでは、世界最高級のサッカー選手たちの生試合が観れます！
サン・セバスティアン：豊かな食文化や気候が快適。
メノルカ島：2019年夏に初めて家族旅行で訪れました。海が綺麗で天候もよく、手つかずの自然が残されている美しい島。

スペイン語の学習歴

［日本］
早稲田大学の第2外国語クラス
［スペイン］
バルセロナの私立の語学学校、バルセロナ大学（サッカー留学時代）。
スペインに来てまもない頃はアレハンドロ・サンツの音楽を繰り返し聴きました。映画館にもよく通いました。今は、新聞をたまに買って読むくらいです。

スペイン語習得のブレイクスルー

まだしていないと思います。患者さんとの意思疎通は5年くらい経ってからかなりできるようになってきたと感じていますが、ネイティブなみの言語センスを習得するのはやはり難しいです。

スペイン人の横顔

――スペイン人も疲れている――
日本にいるとスペイン人はフィエスタやバル飲みを楽しんでいるので疲れ知らず、というイメージを持つかもしれませんが、実際にはマッサージをした方がいいくらい疲れている人は多いです。彼らもよく動き、働いているので、肩こりや腰痛など日本人の患者さんと同様に疲れを溜めています。

仕事スタイル、ココが違う！

顧客対応にムラがあります。否定的な意味ではなく、無理して笑顔を作らずに、素直にその時の感情を見せています。もちろん仕事ではプロフェッショナルとしてサービスすることも大切です。けれども労働者側も同じ家族がいる人間。店員の顔色が悪そうであれば、お客さんの方から「大丈夫？」と声をかけてあげるなど、スペインでは両者間で対等な関係が築けていると思います。お互いに相手を尊重するのは商売の基本です。

【プロフィール】
「一流サッカー選手をマッサージしたい」そんな思いを抱き渡西。空き時間にはスペイン人やサッカー留学生と好きなサッカーをしたり観戦したりしながら、整体院を経営する。当初の夢を叶えた今、「安心とリラックスをあなたの生活に」という理念を持ち、今後新たに事業展開を考えている。
www.shiatsuyoshi.com
youtube チャンネルにて
健康情報発信中

Riko Katsube

フラメンコダンサー歴15年
2004年〜スペインで働く
セビーリャ在住

SEVILLA

お気に入りの場所

Alameda de Hércules:バル系が集まっているセビーリャ市内の地区。

スペイン語の学習歴

[日本]
個人の先生(ネイティブ)
[スペイン]
私立の語学学校、セビーリャ大学付属インスティトゥト・デ・イディオマス
スペインではトータルで3年ほど習いました。シェアアパートで外国人やスペイン人と同居して、そこでも語学力を鍛えました。
最近買った「ANAYA ESPAÑOL LENGUA EXTRANJERA」練習問題シリーズを現在愛用中。

スペイン語習得のブレイクスルー

その瞬間は覚えていませんが、友人同士との日常会話は問題なし。ただ数年前に指圧を教えて欲しいと言われた時、実技と一緒にスペイン語で理論を教えなければならず、すごく気を遣いました。定冠詞や動詞の変化を誤魔化さず、ちゃんとした言葉で伝えようとすると、今でもやはり大変だなと思います。

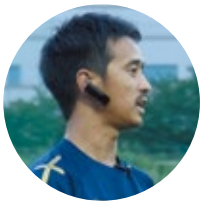
スペイン人の横顔

――陰と陽の二面性――
実はセビーリャにはうつ病が多いです。社会不安などのさまざまな要因で精神的に考え込んでしまう人もいます。一方ではNo pasa nadaというひとつの答えを導き出して、彼らはうまくバランスを取っているのかもしれません。「スペイン人はいつでも陽気」ではなく、その内面はもっと複雑です。

仕事スタイル、ココが違う!

仕事の力量に個人差があります。現場では仕事を非常に熱心にしている人としていない人が一緒にいます。知り合いでレストランに勤め始めた人に、研修はあるの? と聞いたらない、初日から自己流にやらないといけない、と言います。どうすれば、何をすればいいの、と聞いても「¡Buscáte la vida!(自分で探せ!)」と言われてしまいます。当然、仕事の質もばらつきが出てくるのに、それで回っているのがすごいです。

【プロフィール】
不定期の短期帰国時には、フラメンコライブ、ワークショップ(クルシージョ)を中心に活動。昨年好評だった舞台"Sin hij@s"の改訂バージョンやフラメンコを通して日本文化あるいは自分を表現する舞台作品の制作を計画中。フラメンコを初めて見る人たちも楽しめるスペイン文化レクチャーも取り入れたパフォーマンスの展開も視野に入れている。
お問い合わせ:
rikokatsube@gmail.comまで。



Tsuyoshi Osaki

サッカーコーチ歴4年
2016年〜スペインで働く
バレンシア在住

VALENCIA

お気に入りの場所

サッカーグラウンド:自分のクラブ、お世話になったクラブ、プロ・街を問わず、スペイン各地のさまざまな試合を観ています。
サン・セバスティアン:仕事柄よく行く場所。
マヨルカ島:2〜3回行ってとても楽しかった場所。ゆっくり過ごせます。

スペイン語の学習歴

[日本]
一切なし
[スペイン]
私立の語学学校
5年間通って、A1クラスからC2クラスまでレベルアップ。学校の外ではNHKのスペイン語ポッドキャストを毎日聴いていました。またアシスタントコーチとしてグラウンドに立って、他の指導者の話を聞きながら出てきた表現をメモして後で意味を聞くなど、現場でもスペイン語力を鍛えていきました。

スペイン語習得のブレイクスルー

滞在3年目で初めて第一監督になって指導するタイミングの時。自分が指示を出さないとチームが壊れてしまうので、とにかくずっと喋っていました。あまり自分で言葉が間違っているかとか気にする暇もなく、その場で伝えなければいけないことをひたすら言い、チームの皆も意図を汲み取ってくれていたと思います。

スペイン人の横顔

――相手の心の機微を察するのがうまい――
そう感じる場面がよくあります。たとえば試合で負けた時、仕事がうまくいっていない時、辛いことがあった時にハグをしてくれて、大丈夫だよと励ましてくれます。指導しているクラブの子供たちでさえ、こちらが落ち込んでいると「何かあったの」と声をかけてくれます。

仕事スタイル、ココが違う!

日本人に仕事を依頼するのと同じ感覚でスペイン人にすると〆切を守らなかったり、書類に不備があったりといったことが頻繁に起こります。だから明日が〆切の書類は「今日中に」1週間後は「明日までに」と前倒しで依頼します。署名や住所の間違いも日常茶飯事なので提出された書類には必ず目を通さないといけません。逆に、日本人の時間や書類作成の正確性は素晴らしいです。

【プロフィール】
サッカー選手、指導者の留学、チーム、グループ遠征、現地の指導者だからできるコーディネイトがあります。スペインと日本を同時に指導しているから、プロクラブで仕事をしているからわかること、お互いのよさを引き出す方法を余すことなくお伝えします。日本での講演会、クリニックも随時募集しております。
お問い合わせ:
info@pulsense.esまで。

Masanori Hiraoka

シドレリアコンサルタントを目指し就職活動中
サン・セバスティアン在住

SAN SEBASTIÁN

お気に入りの場所

ウリア山:ハイキング、トレッキングにうってつけ。ロングコースを3時間歩くと隣町まで行くことができます。
ウルバサ:自然豊かな森の公園で、まるでもののけ姫の森のような景色。犬を飼っている友達と一緒に散歩に行くと、犬がとても野性的になって生き生きと走り回ります。

スペイン語の学習歴

[日本]
新宿の語学教室
[スペイン]
私立の語学学校
現在通っている語学学校ではB1のクラスで勉強中。日本人の留学生が増えていて彼らと出かけることもあります。日本人コミュニティはちょうど私が住み始めた2018年頃から広がってきているなという印象です。

スペイン語習得のブレイクスルー

久しぶりに会う地元の友人にだいぶ会話が上達したと言われた時や、会話をする際、頭の中で作文せず、何も考えずに言葉が出てくる時にそう感じました。

スペイン人の横顔

――即席討論会――
初めてスペインに来た時、1人のおばちゃんにどこのバス停で降りたら近いか尋ねたところ、おばちゃんが隣のおばちゃんに相談し、そのおばちゃんは隣のおじちゃんに相談し、あっという間にバス中全員での討論会みたいになったのが印象的でした。

仕事スタイル、ココが違う!

プライベートとは反して、労働スタイルにはサービス精神がないと感じることがあります。スペインのバルでは店にもよるが、注文したものをメモを取らず記憶していたり、お客側からの申告制だったりして、驚きました。バスクでは正直が美徳だと聞いたことがあり、納得しました。

スペイン在住の日本人6人。 6 Japoneses en España スペインで為せば成る!

"Querer es poder"

今回取材に応じてくれた6人は、日本とスペインの住環境、労働に対する考え方の違い、そして、スペイン国内でも州によって風土性が大きく異なることを教えてくれた。一概に「スペイン」と述べても、そこは多様な人種・宗教・思想の人たちが共存している国際的に開かれた社会だ。仕事の選択も方法もマニュアル主義ではなく個人主義で多様性を受け入れる国がスペインだ。そしてもちろん、スペインで暮らす、働く、ということはいい面ばかりでもない。自分で創意工夫をして仕事を生み出していくという気概は必要だろう。取材した皆さんも、スペインの高い失業率、外国人労働者のビザの問題、日本社会の常識(遅刻しない、物を丁寧に扱う……)がこちらでは通用しないなど、さまざまな社会不安や苦労話を語ってくれた。

異国の地で働くことに困難はつきものだが、そこで何より大切なのは、たとえ言葉が拙くても、自分の意思をはっきりと相手に示すことだ。感情でも、疑問でも、スペインでは思ったことをちゃんと口にすることが、自分の人となりを相手に知ってもらい、信頼関係を築くカギとなる。

最後に、共通して回答を得られたスペイン人の主な3つの国民性をまとめておこう。

口コミの力

スペインでも「知人・友人からの紹介」効果が強烈に働く。1人がサービスを気に入ってくれたら、その人の口を通して一気に顧客が増えるということも十分あり得る。今回ご紹介した人たちも、スペイン人の顧客は友人の紹介で増えていった、と答えてくれた。これから仕事を見つける場合でも、現地で頼れる知人・友人を見つけて、彼らの紹介で積極的にたくさんの人に会って顔を広げていくことでチャンスは増えていくだろう。

寛容精神

スペイン人の呪文は"Poco a poco"(少しずつやっていこう)、"No pasa nada"(大丈夫だよ、気にしなくていいよ)。仕事がうまくいかなかった時に落ち込んだり、ナーバスだったりするとスペイン人たちはそう言ってリラックスさせてくれる。自分では深刻だと思っている問題でも、彼らの励ましで気持ちが楽になる。失敗した人を責めすぎない、当事者の心の安らぎを大切にするのが、懐の深いスペイン人たちなのだ。

家族愛

スペイン人はとにかく家族と過ごす時間を大切にする。それゆえに、他人の家族への気遣いの精神も生まれてくる。家族のことで何かあったら男性でも仕事よりもそちらを優先できるケースが多く、不安ごとがあると知ると、むしろお客さんから「仕事を休んで家族のそばにいてあげなさい、私たちは待っているから」と言われることもある。週末は家族と過ごして、会社や仕事を優先することはあまりないのが一般的だ。

「スペイン人と日本人は対照的で、お互いのいいところを足して2で割ったら最高なのに」という声も聞いた。励まし上手・褒め上手・盛り上げ上手なスペイン人、彼らの魅力に肌で触れながら、自由な風土で自己研鑽していく……新天地を目指しスペインで次に輝くのはあなたかもしれない。